

— 児童館（学童クラブ）版 —

第三者評価結果報告書

江東区東雲児童館

【5段階評価の基準について】

- 5：全般的に極めて優れた状態にある
（非常に高度な状態が実現されている場合を想定）
- 4：優れた状態にある
（全般的に「適切な状態」以上であることに加え、一部に極めて優れたレベルのものがある）
- 3：適切な状態にある
- 2：一部不十分な状態にある
（一部に重要な改善点があり、「適切な状態」とまでは言えない）
- 1：全般的に極めて不十分な状態にある

■評価項目及び評点について

評価手法全般は、東京都福祉サービス第三者評価手法（平成16年度版）に準拠し、平成30年10月に改正された児童館ガイドラインを加味して評価項目を作成した。平成17年度児童館ガイドラインの基礎を作成した一般社団法人児童健全育成推進財団『児童館等の第三者評価についての調査研究』にて多くの児童館の評価を経験し、項目検討に参加したノウハウを生かし評価を実施した。評点は、客観性を担保するため、従来からの考課項目を用いて微調整を行うことで、当社の過去の同類型の評価実績をもとに定量データと定性データを加味して評価を行った。

少子高齢化が問題視される中、児童館（学童クラブ含む）の指定管理者制度が広まり、児童健全育成が民間企業に委ねられつつある。今後、子ども達の健全育成を支える中核としての施設に児童館が成長することを願うとともに、サービスの質の確保のため、第三者評価制度が普及することを期待したい。

利用者調査	2019（令和元）年 11月 8日～11月30日
自己評価（職員及び合議）	2019（令和元）年 11月 8日～12月15日
訪問調査	2020（令和2）年 1月30日
評価報告日	2020（令和2）年 3月 3日

評価機関

株式会社川原経営総合センター

東京都品川区北品川4-7-35 御殿山トラストタワー 9階
経営コンサルティング部門
TEL 03 (5422) 7147
評価者 田中 律子、金沢 幸藏

江東区立東雲児童館(学童クラブ含む) 評価結果 総評

特に良いと思う点	特に改善する必要があると思う点
<p>1 <u>当児童館の行事から、地域の行事へ発展するなど子育てネットワークを開拓しています。</u></p> <p>児童館で児童館と学童クラブだけのイベントであったハロウィンが、同一法人の東雲地区の8施設合同のイベントとなり、さらに地域の住民などを巻き込み900人が参加する大イベントに発展しています。地域の保育園や商店からも参加の申し出を受けています。法人の一体感と積極的な地域活動から、地域の子育てネットワークの構築に多大な貢献をしています。</p>	<p>1 <u>近隣住民である高齢者との関係を深めることを期待します。</u></p> <p>当児童館は団地の一角に位置し、近隣住民は、高齢者が増加傾向にあります。団地の自治会とは、地域連絡会を通して区とともに児童館運営への理解を図っています。今後、ボランティアや災害時の協力体制、建物利用など、子ども達が高齢者を身近な存在と感じられるよう関係を深めていくことが期待されます。</p>
<p>2 <u>児童館や学童クラブの2事業が連携し、相乗効果を発揮した事業運営を行っています。</u></p> <p>当児童館は、学童クラブを併設しており、各主担当を設けそれぞれの事業の役割に応じた支援を行っています。それとともに、日々の連携や季節のイベントなどの合同行事、企画申込時の受付対応など、2事業の職員が利用者の立場に立った視点を大切に、相互連携を図っています。2事業の相乗効果を高め、拠点としての一体感により、利用者サービスの向上に取り組んでいます。</p>	<p>2 <u>成長を促す視点の更なる強化としてヒヤリハットの活用が期待されます。</u></p> <p>児童館や学童クラブにおいて、事故に対するヒヤリハットは、子ども達の能力を引き出す位置付けにも活用することができます。職員の「業務の心得と手引き」において、集会室における職員の役割は安全を守る重要な存在であると明記しています。現在、特段事故が多い状況ではないものの、今後、ヒヤリハットを活用し更なる観察力の強化を図り、遊びの中で子ども達が自ら防ぐ力を伸ばす工夫を行うことが期待されます。</p>
<p>3 <u>個々の職員の細やかな観察と、日々の利用者との関わりにより信頼感のある相談対応を行っています。</u></p> <p>児童館事業では、利用者との関わりを重視しています。気になる子ども達の情報は全職員で共有し、話し合いのもと対応方法を検討しています。学童クラブ事業では、入会当日から、担当分けをして、一人ひとりの子ども達が誰と遊んでいたかを把握し、細やかに連絡帳に記載し保護者との信頼関係を構築しています。その結果、今回の利用者アンケートでは、相談対応に関して全対象から高い評価を得ています。</p>	<p>3 <u>目的を意識した検証をすると、なお一層効果的な企画になると思われます。</u></p> <p>行事企画は、目的とともに具体的な実施計画を作成し、実施後には職員会議で共有したり、報告書にて検証を行っています。今後は、検証時にも目的に応じた視点で、振り返る習慣をつけることが望まれます。その習慣により、なお一層、企画の役割を意識する機会になると想定されます。</p>

児童館・学童クラブ 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価項目	評価結果
1. 理念・基本方針	(1) 理念、基本方針が確立されている	3	① 理念が明文化されている	<p>・理念や基本方針の明文化とともに、ブランディングに力を入れて取り組んでいます。 法人理念や基本方針はホームページ上だけでなく「業務の心得や手引き」などに明文化しています。また、法人の特徴をわかりやすくするために、スローガンとして『みつかる。つながる。よくなっていく。』の設定とともに、ロゴを統一し、職員や利用者へ周知できるよう努めています。</p> <p>・法人研修などにより理念や基本方針、スローガンの理解を深めています。 全職員が参加する年2回の法人研修では、全国アフタースクールスタンダードという法人統一の資料を使用し周知に努めています。また、職員が携帯している名札の紐にスローガンを明記し、日々思い出せるよう周知の徹底を図っています。</p> <p>・理念や方針に関して利用者、保護者及び地域へ発信しています。 学童クラブの保護者会だけでなく、地域連絡会で理念や方針の説明を行い、児童館にかかわる方々への周知を積極的に行っています。受託から10年を超え、当児童館の子ども達の特性にあった方針として、「①地域に根差した児童館、②アットホームな児童館、③職員から子どもの中へ」を基本として取り組んでいます。</p>
	(2) 理念や基本方針が周知されている		① 理念や基本方針が職員に周知されている	
2. 計画の策定	(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている	3	① 中・長期計画が策定されている	<p>・法人ビジョンなどを作成し、法人内事業所と一体感のある事業運営を行っています。 法人ビジョンとして『互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。』を掲げ、スローガンとともに、ホームページ上に広く公開しています。同一法人内、同地区の8事業所と合同の研修を行い、ビジョンの実現に向けて取り組んでいます。</p> <p>・職員全員での話し合いのもと事業計画を策定しています。 法人ビジョンやスローガンなどを原点として、過去の傾向を踏まえて2事業の各主任が事業計画の原案を作り、全職員で検討し作成しています。年間目標は、基本方針に年毎にサブタイトルを付け、事務所に掲示し意識しています。</p> <p>・事業計画と年間目標の連動を整理し、職員で確認できるしくみが期待されま す。 作成した事業計画は区に提出したり、地域連絡会で配布し、事業内容の理解を求めています。年間目標を事務所に掲示し、職員の周知を図っています。今後、事業計画と年間目標の関係性をわかりやすくしたり、事業計画書を職員に配布し、職員会議で再確認するなどさらに理解が深めるしくみの一つと言えます。</p>
	(2) 計画が適切に策定されている		① 計画の策定が組織的に行われている	

児童館・学童クラブ 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価項目	評価結果
3. 管理者の責任とリーダーシップ	(1) 管理者の責任が明確にされている	3	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している	<p>・現場運営を館長から各主任に移譲し、主任が中心となり日常業務に取り組んでいます。 相談対応や研修報告など従来館長が行っていた業務を、主任に権限委譲し、組織的かつ機能的なしくみに見直しています。主任が日常業務管理、人材育成、事業計画素案作成、行政提出書類など事業の責任を担うことで、管理者の育成を図っています。今後、職務分掌を明文化することで、職員のキャリアパスが、なお一層わかりやすくなる効果が期待できます。</p>
	(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている		① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している	
4. 経営状況の把握	(1) 経営環境の変化等に適切に対応している	3	② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している	<p>・職員間の情報共有を細やかに行っています。 毎日、昼に情報共有の時間を設けたり、月1回職員会議により細やかな情報共有を行っています。さらに言うなれば、児童館部分に関しても、その日の終わりまでの情報がその日のうちに確実に共有(記録)できる工夫をすると、なお一層細やかになる可能性があります。</p>
			③ 外部監査が実施されている	

児童館・学童クラブ 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価項目	評価結果
5. 人材の確保・養成	(1) 人事管理の体制が整備されている	4	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している	<p>・職員の個別面談や研修、日々のコミュニケーションにより成長できる環境が整っています。 職員の評価は、年2回以上の館長との個別面談を通して行っています。また、一人ひとりの職員の経験に応じて、各主任が担当となり指導しています。研修や日々のコミュニケーションを通じた育成により、職員の自己評価では、成長できる環境であるという意見が挙げられています。</p> <p>・同一法人の他事業所と合同で研修を実施し、職員の質の向上に努めています。 同一法人の東雲エリア、芝浦エリアの児童系施設合同で実践的研修を行っています。各エリアの主任が中心となり、連絡帳の書き方など児童育成に関する基本から応用までの研修を企画、運営し、職員の質の向上を図っています。</p> <p>・実習生やボランティアの受入れ体制を整備しています。 保育専攻学生を中心に実習生を年数件受け入れています。受入れ時には、ボランティアと同様に個人情報など留意点を説明し、受け入れ体制を整備しています。現在、中学生の職場体験の機会が減っていることを、課題として捉えています。</p>
	(2) 職員の就業状況に配慮がなされている		② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている	
	(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている		① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている ② 福利厚生事業に積極的に取り組んでいる	
	(4) 実習生の受入れが適切に行われている		① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている ② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され、計画に基づいて具体的な取り組みが行われている ③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている	
			① 実習生の受入れに対する基本的な姿勢を明確にし、体制を整備している ② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている	

児童館・学童クラブ 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価項目	評価結果
6. 安全管理	(1) 事故等の緊急時対応が適切に行われている	3	① 事故やけが、体調不良等緊急時の対応策を明確にし、職員に周知徹底している	<p>・万一の災害のために同じ建物の団地とより連携した訓練が期待されます。 緊急時の対応フローや警察、消防、学校、病院などの連絡先を事務所内に大きく掲示し、緊急時に誰でもスムーズに対応できる状態としています。現在、地域との防災訓練は、小学校での大規模訓練のみとなっています。今後、児童館のある団地との合同訓練なども検討の余地があります。</p> <p>・職員の気づき醸成のためにも、ヒヤリハットのさらなる活用が望まれます。 年1回、区主催の安全管理推進委員会の報告の際にヒヤリハットを提出しています。ヒヤリハット報告書は、事故予防だけでなく、改善策の視点には、子ども達がより活発に活動できるための要素が含まれます。その着眼点から遊びの工夫へ導くこともできます。個々の職員の観察力をなお一層高めるためにも、今後、ヒヤリハット報告書を習慣とすることが期待されます。</p> <p>・防災や設備管理に対する適切な体制を整備しています。 法令の定めである消防訓練の他、地震、水害など様々な災害を想定した訓練を毎月実施しています。また、区の点検シートを活用した年2回の設備点検、チェックリストによる毎日の開館時と閉館時の点検を実施するなど職員全員が防災意識を持てる体制整備をしています。</p>
	(2) 事故等に対する予防が適切に行われている		① 備品点検、子ども自身への学習等を含め、事故やけがに対する予防的取り組みを実施している	
	(3) 災害に対する備えが適切に行われている		① 消防法の規定に沿った防災対策・防災訓練等を実施している ② 実際に発生した場合を想定し、緊急時体制が確立されている	
	(4) 交通安全や不審者への対応が明確になっている		① 来所、帰宅等の安全確保および不審者対応に関する予防策を実施している	
7. 地域との交流と連携	(1) 地域との関係が適切に確保されている	4	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている ② 事業所が有する機能を地域に還元している ③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している	<p>・行政と積極的に連携し、地域福祉への貢献度を高めています。 特に困難事例の場合は、子ども家庭支援センターや児童相談所などと連携し、課題解決につなげるよう努めています。より密な連携の必要性を関係機関に積極的に働きかけています。</p> <p>・児童館発信のハロウィンイベントは地域の企画へと発展しています。 当児童館(学童クラブ合同)が以前民生委員の方々の協力を得て行っていたハロウィン行事が、現在は、同一法人の東雲地区の8施設合同のイベントとなり、さらに地域の住民を巻き込み900人が参加する大イベントに発展しています。地域の保育園や商店からも参加の依頼を受け、地域の子育てネットワークの構築を図っています。</p> <p>・団体の場合は、他利用者に影響しない範囲で利用するよう協力を促しています。 近隣幼稚園の保護者の謝恩会の練習場所として、児童館設備を開放しています。その他、団体利用を希望する場合は、利用の留意点を文書で伝え、他の利用者が利用しにくくならないよう協力を促し、施設を最大限利用できるよう工夫しています。</p>
	(2) 関係機関との連携が確保されている		① 必要な社会資源を明確にしている ② 関係機関等との連携が適切に行われている	
	(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている		① 地域の福祉ニーズを把握している ② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている	

児童館・学童クラブ 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価項目	評価結果
8. 利用者本位の福祉サービス	(1) 利用者を尊重する姿勢及び児童虐待に対する指針が明示されている	3	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている	<p>・日頃のコミュニケーションを大切にし、意見の言いやすい環境を整備しています。 毎年、利用者アンケートを実施したり、受付に意見箱を設置するなど、積極的に利用者意向を把握しています。利用者アンケート結果などを、ホームページや館内の掲示板に公開し、透明性を確保しています。また、日常の子ども達や保護者とのコミュニケーションを大切にし、相談しやすい環境を構築しています。</p> <p>・虐待防止、ハラスメントなど各種規程を整備しています。 虐待が子どもへの心と体、時に命にまで影響することとして、少しでも可能性がある場合には、多くの情報をもとに、職員で共有して共通認識のもと支援を行っていく姿勢をマニュアルにて明確にしています。チェックリストなどにより、判断基準を定め取り組んでいます。その他、各種ハラスメント規程や「業務の心得と手引き」に、職員の利用者への対応姿勢を明確にしています。</p> <p>・アンケート結果を踏まえて改善に取り組んでいます。 毎年の利用者アンケート調査結果を職員会議で共有し、優先順位を決めて対応を検討しています。全般的に高評価ではあるものの、ごく一部には継続して挙げられているものもあります。当児童館では、職員をニックネームで呼ぶ方針としています。また、行動指針では子ども達に対して呼び捨てはしないことを明記しています。ニックネームと呼び捨ての区分けについて、今一度話し合いの機会を持ってもらいたいと思われれます。</p>
	(2) 利用者満足の向上に努めている		① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している	
	(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている		① 利用者が苦情や意見を述べやすい環境を整備している	
			② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している	
			③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している	

児童館・学童クラブ 組織管理項目 評価結果

カテゴリー	サブカテゴリー	評価	評価項目	評価結果
9. サービスの質の確保	(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている	3	① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している	<p>・利用者の状況に合わせたサービス提供に努めています。 当児童館では比較的経験の長い職員が多いものの、利用者ニーズの変化を踏まえ常に鮮度のある企画に見直しを行い、子ども達が好みに合わせ”継続”と”変化”を楽しめるよう工夫しています。</p> <p>・行事に関して目的にあった報告や検証の視点が期待されます。 行事企画は、担当者が企画書を提出し、他の職員の意見を踏まえて、実施しています。児童館と学童クラブ合同の企画や日常の協力体制など、同じ子ども達に関わる関係者として情報共有を行っています。行事終了後、記憶の新しい時期に検証を行ったり、目的を意識した視点で振り返るなど、視点を再度共有すると、更なる質向上が期待されます。</p> <p>・サービスの実施状況などを各種記録に残すとともに、適切な記録管理を行っています。 日誌や企画書・行事記録などを、記録に残し、主任、館長が確認しています。入会時の情報や経過観察が必要なケースなど、個人情報に関わる記録類は、施錠できる書庫にて保管し、適切に管理しています。</p>
	(2) 個々のサービスの標準的な実施方法が確立している		① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている	
	(3) サービス実施の記録が適切に行われ、管理されている		① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている ② 利用者に関する記録や個人情報の管理体制が確立している ③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している	

児童館 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
<p>(1) 広報活動およびサービスの開始・継続</p>	<p>① 広報活動が適切に行われている</p> <p>② 児童館の活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるよう創意ある広報活動が行われている</p> <p>③ サービスの開始にあたり利用者等に利用方法をわかりやすく説明している</p>	<p>3</p>	<p>・カラフルで読みやすい児童館便りを毎月発行し、関係機関に配布しています。 広報活動は、ホームページの他、乳幼児、小学生対象の児童館便りを毎月発行し、近隣の3つの小学校全校生徒に配布するとともに、自治体や民生・児童委員などに約2,500部を発行しています。申込が必要なイベントなどは、別にチラシを作成し、申しやすくしています。口コミを生かした広報を意識し、新たな企画は子ども達が翌月を期待し、友達と参加したくなるよう工夫しています。</p> <p>・対象による利用特性を考慮した広報活動に向けて検討を進めています。 ホームページに毎月の児童館便りや活動の様子を掲載しています。今後、尚一層、情報が対象に伝わるよう、ホームページでの発信を高めていく予定です。今後、法人特性を生かし、例えば、中高生・大学生を含めたボランティア育成なども、「改正児童館ガイドライン」に準じた活動と言えることから検討の余地があります。</p> <p>・職員同士の情報共有により適切に申込受付ができるよう配慮しています。 児童館を初めて利用する場合は、名前や地域、性別、小学校名を受付で記載し利用することができます。乳幼児に関しては、継続利用を希望する場合は、カードを作成し、毎回名前を書かなくても利用できるようにしています。特別プログラムなど電話での事前申込が必要な場合に、誰が受けても確実に対応ができるよう、担当以外に申込受付状況を昼礼で共有し、適切に対応しています。</p>
<p>(2) 遊びの環境整備</p>	<p>① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている</p> <p>② 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある</p> <p>③ 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している</p> <p>④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている</p> <p>⑤ 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている</p>	<p>3</p>	<p>・アンケート結果を反映し、誰もが使いやすいルール作りに取り組んでいます。 集会室は、乳幼児タイムや中高生を対象とした時間帯を設定、児童館便りや集会室前に掲示し、遊びのルールをわかりやすくしています。利用者意向を受け図書室に飲食スペースやおやつコーナーを設置しています。今後は、寝転げるスペースを設ける予定をしています。一度決めたルールを固定化するのではなく、利用者の状況や特性に応じて、変化させつつ、誰もが利用できる環境を目指しています。</p> <p>・生き物や農村塾、図工、図書室、公園利用など多様な経験ができる環境を構築しています。 カブトムシの幼虫を育てたり、農村塾で野菜を栽培したり、近隣公園の遊びを盛り込むなど、多様な遊びの環境を設定しています。また、日常の自由に遊べる環境の他に、普段利用しにくいものは専用日を設けることで、遊びの幅を広げる工夫を行っています。</p> <p>・遊びのルールや遊び方を職員行動指針で共有し、職員の統一した関わりにより遊びの環境を作っています。 職員の行動指針「業務の心得&手引き」に児童館職員の姿勢として、部屋ごとの遊びのルールを明記し、各部屋での子ども達の成長に関わる職員の役割を伝えています。職員が関わりの中で子ども達がルールを守って遊べるよう取り組んでおり、アンケート結果でも職員が遊んでくれるという意見が多く挙げられています。</p>

児童館 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(3) 乳幼児と保護者への対応	<p>① 乳幼児と保護者が日常的に利用している</p> <p>② 乳幼児活動が年間を通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている</p> <p>③ 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している</p>	4	<p>・月齢ごとに3クラスに分け、親子の成長に合わせ継続利用できるよう支援を行っています。 乳幼児プログラムは、月齢ごとに3つのクラスに分け、予定の入った手帳に利用の都度シールを貼り、クラス変更時には、手帳を移し替えて継続して利用できるよう工夫しています。乳幼児プログラムは、子どもと親の関わり方を含めて対象にあった企画を取り入れています。“寝ぞうアート”では子どもの写真を撮る場面作りをするなど、子どもとの関わり方を保護者が楽しめるよう企画の工夫を行っています。</p> <p>・クラス活動の他、公園遊びや水遊び、外部講師など多様な企画を行っています。 3つのクラス活動の他に、母のためのリラックス講座やヨガ、ハンドマッサージ、お父さんのベビーマッサージなど、保護者のリフレッシュの機会を設けています。近隣短大の芝生広場を利用した外遊び、夏場の水遊びの他、外部講師による絵本ライブなど多様な経験ができる機会を提供しています。</p> <p>・恵方巻など食をテーマとした工作を取入れ、企画を通して会話が弾むよう工夫しています。 芋ほりやお弁当、恵方巻など子どもも大人も楽しめる工作に力を入れています。また企画の運営方法に材料を選択する場面を意図的に盛り込み、材料選びを通して保護者同士が会話できるよう環境作りを行っています。</p>
(4) 小学生への対応(核となる児童館活動)	<p>① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している</p> <p>② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている</p> <p>③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている</p> <p>④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている</p>	4	<p>・ミニ農業体験からクッキングなど多様な企画を盛り込み、遊びの変化に取り組んでいます。 高学年の女子の来館が少ないことから、ガールズタイム企画を設定し、運動や制作などバランスを考えて、行っています。会の終わりに次回の企画紹介を盛り込むなど細やかな工夫を行い、女子の来館者数の増加につながっています。その他、日常のクラフトや一輪車、ダンス、卓球などの他、デイキャンプや一日キャンプなど多様な企画を行っています。</p> <p>・子ども達の日常的な来館を促す工夫を行っています。 運だめしチャレンジカードを作り、職員に声をかけ、ボールを取り、ボールの色によってスタンプが増え、ランクが上がるゲームを取り入れています。企画が無くて子ども達が目的を持って来館し、職員と話しをするきっかけとなるよう取り組んでいます。訪問調査の際も子ども達が楽しんでチャレンジできるよう話しかけている様子が伺えました。</p> <p>・学童クラブと合同にて、継続的に活動した成果を披露する場を設けています。 併設の学童クラブと合同でのちびっこ忘年会では、日ごろのダンスや一輪車、縄遊び、コマなどを子ども達が披露する機会としています。参加が難しい場合は、装飾として壁紙作りに参加し、夢の児童館を書いてもらうなど、子ども達が児童館の利用を楽しんでもらえる機会を設けています。</p>

児童館 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(5) 中高生への対応	<p>① 日常的に中高生の利用がある</p> <p>② 中高生が主体性や社会性を養えるような活動を継続して実施している</p>	3	<p>・一人でふらっと来館したり、友達同士で来館したり中高生の日常利用が定着しています。 中高生が日常的に来館しては、職員と一緒に児童館便りの配布準備を手伝いするなど、居場所としての役割を担っています。また、お祭りや看板制作など規模の大きな行事では、ボランティアとして活動しています。</p> <p>・中高生だけでなく、小学生とも交流の機会を設けています。 17時以降は集会室を中高生の時間として設定し、中高生の了承があれば小学生も一緒に遊べることをしています。集会室だけでなく、図書室などでも小学生と同じ空間で日常的に過ごすことも多く、自然と関われる環境を構築しています。今回の利用者調査では、全般的に高い評価となっており、中高生が居場所として過ごしていることが伺えます。</p> <p>・中高生に向けた広報活動を行うことが期待されます。 学童クラブの経験者だけでなく、口コミから利用する中高生が増えています。現在、中高生向けの児童館便りを学校で配布する構想となっており、中学校と相談している段階にあります。今後、中高生に向けたなお一層の情報発信が期待されます。</p>
(6) 利用者からの相談への対応	<p>① 乳幼児の保護者に対して育児情報を提供したり、育児に関する相談に対応している</p> <p>② 小学生の不安や悩みなどの相談が自然な形で行われている</p> <p>③ 思春期の子ども達からの相談が自然な形で行われている</p>	4	<p>・専門職を生かした相談が効果的になるよう支援しています。 保健師や歯科衛生士、栄養士など外部講師による相談コーナーを設けています。企画名称を変更し、気軽に相談できるよう、利用者の心境を考慮した工夫を行っています。また、地域の各保育施設の毎月のイベントを独自にまとめ、乳幼児の保護者へ情報提供を行っています。</p> <p>・日常的な会話から子ども達の悩みを拾い上げ、職員間で共有しています。 毎月、一人ひとりの職員が来館者の悩みを提出し、継続して悩みがある場合は、個別な記録に整理して、経過観察を行っています。職員が一人に対処せず話し合いのもと対応することを前提としています。その成果として今回のアンケートでは乳幼児、小学生、中高生の全ての対象者から相談対応について、高い評価を得ています。</p> <p>・子ども達が自信をつけるよう緩やかな関係を保ちつつ、細やかな配慮を行っています。 乳幼児の保護者から集団遊びの中で自信を持って行動できるよう、成長してきたという意見が複数挙げられています。相談という形式にこだわらず、日常の支援の中で、保護者の不安を解消し、子ども達や保護者を細やかに把握し、支援している結果と想定されます。</p>

児童館 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(7) 地域の子育て環境づくり	<p>① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</p> <p>② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている</p>	3	<p>・子ども達の社会参加の機会として地域清掃活動に取り組んでいます。 近隣公園を清掃する東雲クリーン大作戦や、自治会、警察署、区の協力を得て行うピッカピカ大作戦など、子ども達が地域に繰り出し、地域の人たちと交流できる機会を設けています。その他、学校が早帰りの毎週水曜日には、下校時のパトロールを行っており、警察署から防犯協会長連名賞を受賞しています。</p> <p>・学習支援ボランティアによる子ども達の支援を行っています。 現在の学習支援ボランティアは、教員経験など専門性が高く、3年継続して活動しています。地域連絡会に同席し、子ども達との関わり方を地域の方々に伝え、理解を促すなど、児童館運営の理解者であり、重要な支援者として連携を図っています。</p> <p>・団地の一角にある児童館として、高齢者との関わりが期待されます。 当児童館は、団地の一角に位置します。現在、地域連絡会などで団地と話し合いの機会はあるものの、日常的に来館する機会は限定的となっています。今後、団地の高齢者がボランティアとして関われる企画を開拓したり、防災関係で協力体制を作るなど、同じ地域にいる住民として関わりを増やすことが期待されます。</p>

学童クラブ 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(1) サービスの開始・継続	<ul style="list-style-type: none"> ① 将来の利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している ② サービスの開始にあたり、利用者に利用方法をわかりやすく説明している ③ 利用者情報の適切な把握と適正な情報管理を行っている ④ サービス開始時の保護者や子どもへの精神的不安を軽減している 	4	<p>・新学期には、保護者面談や上級生への意識付けなどで新入会の迎え入れ準備を行っています。 学童クラブ概要を当学童クラブのホームページに掲載し、情報提供を行っています。アレルギーや配慮が必要な場合など希望に応じて、入会前に面談を行っています。3月には、迎え入れの準備として、学童クラブの子ども達に上級生としての意識付けを行います。学年を超えた縦割りグループを生活の基本とし、おやつや工作など仲間として迎え入れる準備を行っています。</p> <p>・学童クラブ初日は、子ども達一人ひとりの様子を丁寧に把握し、保護者との関係作りを行っています。 学童クラブ初日は、職員全員で担当分けをし、一人ひとりの子どもが誰と遊んでいたかを把握し、子どもの個性を理解するとともに、初日の様子を連絡帳に記載し保護者との信頼関係を築いています。</p> <p>・年2回の保護者会で、保護者同士の交流ができるよう関係作りの支援を行っています。 保護者会では、学童クラブの方針の説明とともに、趣味やゴールデンウィークの過ごし方など3つのテーマから話題を選び、保護者の方々が自分自身の話をする機会を設定しています。話しやすい職員が同じテーマで話をしてから、気軽な雰囲気の中、保護者自身が自分自身の交友関係を作れるようきっかけ作りを行っています。</p>
(2) 遊び及び生活の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている ② 利用者が自発的かつ創造的に活動できるよう室内・外の遊び場が確保されている ③ 子どもの持ち物が適切に保管できるようになっている ④ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている ⑤ 学童クラブ以外の子どもと遊べる環境を設けている 	3	<p>・子ども達が自分達でルールを作る機会を設けて、主体性を促す支援を行っています。 2クラスの学童クラブは、概ね基本ルールを統一したうえで、それぞれの子ども達の個性によって、クラスごとのルールを設けています。工作の展示期間・個数、帰りの際の歩き方など、ルールの必要性が生じた場合は、おやつの時間などに話し合いの機会を設け、ルールを決めています。子ども達が主体性を持って取り組めるよう支援しています。</p> <p>・週1回は、公園遊びや集会室など体を動かす遊びを取り入れています。 学童クラブの子ども達は、児童館行事にも参加することができ、登録した子ども達以外とも遊べる環境にあります。集会室では恒常的に体を動かす遊びを行うことができますが、週1回は隣接する公園での外遊びを取入れています。同一施設の中での2事業を利用する子ども達が円滑に利用できるよう、合同行事などを定期的に行い、多様な遊びの場を設けています。</p> <p>・「第二の家庭」として子ども達がくつろいでいます。 子ども達にとって、学童クラブが「第二の家庭」となるよう細やかな対応を行っています。今回の保護者アンケートでも全般的に高い評価となっており、特に子ども達の状況把握に対して、全員が肯定的に回答しています。細やかさが子ども達のくつろぎの基盤になっていると想定されます。</p>

学童クラブ 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(3) 遊びや体験を通した育成	<p>① 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや子どもの自主性・主体性を育てることを意識して企画されている</p> <p>② 遊びや活動の中で、子ども同士の人間関係に配慮し、円滑な人間関係を築く力を身につけるよう援助している</p> <p>③ 行事や活動を進めるうえで、子どもの意見を尊重して行っている</p> <p>④ 障害の有無や国籍の違いを超えて、子どもと一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている</p>	4	<p>・同一法人の他の学童クラブや他施設との連携により、幅広い交流の機会を設けています。 同一法人の3つの学童クラブ合同での交流会を年2回行っています。その他、グランチャ東雲を利用している高齢者との交流会や、東雲地区全体でのイベントに発展した児童館と合同行事のハロウィンイベントなど法人の他施設との連携により、幅広い体験ができるよう取り組んでいます。</p> <p>・学童クラブの行事は、生活の一部として季節感を取入れて行っています。 学童クラブの行事に季節感を取り入れ季節の変化を楽しむことができるよう工夫しています。七夕飾りや水鉄砲遊び、ハロウィン、クリスマス、正月、節分などの他に、勤労感謝の日に家族にプレゼントを贈るなどを行っています。また、毎月の誕生会は、上級生が司会やゲームの進行を行い役割を変え成長できる機会を設けています。</p> <p>・子ども達がお互いを理解できるよう話し合いの機会を設けています。 子ども達がお互いの個性を理解できるよう、子ども達の関心が過度に集中した場合には、保護者にも相談のもと、子ども達がお互いの個性を理解できるよう職員が橋渡しを行っています。また、初めての遊びに抵抗がある場合は、子どもの特性を考慮し、事前に話をして興味を促し、全職員で対応を考え、一人ひとりの子どもの個性に配慮しつつ、活動の幅を広げるよう工夫しています。</p>
(4) 日常生活の一環としての支援	<p>① 職員が個々の子どもの状態や心理状態に考慮して適切に援助している</p> <p>② 子どもの健康管理や情緒の安定に関して配慮している</p> <p>③ おやつが適切に提供されている</p> <p>④ 必要に応じ基本的生活習慣の確立に向けた指導を行っている</p>	3	<p>・おやつはアレルギーなどを考慮に入れ、全員が同じものを食べられるよう配慮しています。 食物アレルギーなどがある場合は、おやつを購入する際に成分表示を確認し、納入時にも再度2人の職員で確認し、アレルギー物質が含まれないよう注意しています。おやつ選定の段階で行うことで、全員が同じおやつを食べられるようにしています。その他「食パンお絵かき大会」など手作りおやつを毎月実施し、毎日の楽しみとして過ごせるよう配慮しています。</p> <p>・けがや薬の取り扱いなど対応範囲をあらかじめ保護者に文書で説明し理解を求めています。 子ども達のけがや薬の取り扱いなどは、入会時のしおりに対応範囲を具体的に記載し、保護者にあらかじめ理解を促しています。体調不良の場合は、横になれる職員休憩室などで安静にして過ごせるよう配慮しています。</p> <p>・靴やカバンの整理、宿題など生活習慣に関して指導を行っています。 毎日、登室時は、宿題や読書など静かに過ごす時間を15分(三期休暇は40分)設け、子ども達の自己申告で行っています。その他、靴やカバンの整理など生活習慣を身に付けるよう指導を行っています。訪問調査の際、やや柔軟すぎる印象があり、生活の習慣として身につくよう声掛けなど今後再確認が望まれます。</p>

学童クラブ 付加項目 評価結果

サブカテゴリー	評価項目	評価	評価結果
(5) 保護者への支援・連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 学童クラブでの子どもや子ども達の様子を保護者に伝えている ② 出欠確認をはじめ、来館しない場合の対応について保護者と取り決めを行っている ③ 保護者が行事や活動へ参画する機会を設けている ④ 保護者同士が交流できる機会を設けている ⑤ 職員が小学生低学年期の育成要素を理解し、保護者から相談が受けられるような体制を整えている 	4	<p>・保護者アンケートにおいて個別な対応や細やかさに関して高い評価を得ています。 入会時の担当分けをした観察などを通して、子ども達一人ひとりの個性を細やかに把握しています。遊び方や気になる点などについて日々職員間で情報交換を行い、対応について役割分担を決めたり試行錯誤しながら、子どもの興味を引き出せるよう工夫しています。連絡帳で保護者との丁寧なやり取りが見受けられ、今回の保護者アンケートでも個別な対応に関して高い評価を得ています。</p> <p>・年2回の保護者会や面談を通して、保護者同士の交流の場を作るとともに信頼関係を構築しています。 年2回の保護者会では、子ども達の様子を保護者同士が交流できるようきっかけを作ったり、保護者自身が自分の時間を大切にできるよう創意工夫を行っています。その他、必要に応じて個人面談を行っています。</p> <p>・保護者からの相談に関して細やかな対応を行っています。 電話対応を含めどんな場合でも、保護者との対応は明るく適切に行うよう、全員が意識して取り組んでいます。保護者から電話で連絡があり、来館にて相談する保護者も多く存在します。相談した保護者からは親身になってくれたという意見が多く、学童クラブの登録者数が増えていることもこういった姿勢に対する結果であると推察されます。</p>
(6) 学校・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事を把握するとともに、学童クラブの予定を学校に伝えるなど相互情報交換が行われている ② 学校・地域・関係機関に対して学童クラブの役割や方針、活動内容などを伝えている ③ 学童クラブの運営に対して学校・地域・関係機関から協力を得ている 	3	<p>・小学校とは、年度初めの挨拶などを通じて情報交換や連携方法を話し合っています。 年度初めに小学校に挨拶に行き、副校長や学年主任の先生と合い、子ども達の様子や下校時の学校との取り決めなどを再確認しています。学校側の体制変更にも継続した関係が構築できるよう取り組んでいます。</p> <p>・毎月小学校の行事案内や学童クラブのお便りなどを通じて情報交換しています。 当学童クラブは近隣の東雲小学校と有明小学校の子ども達が利用しています。各小学校の行事を毎月把握しています。近隣の小学校には、毎月学童クラブのお便りを届け、子ども達の様子など情報交換を行っています。現在、学校内のきっずクラブとは、制度上災害時の連携関係にあります。今後、さらに連携を図ることが期待されます。</p> <p>・地域連絡会を開催し、近隣の他施設に学童クラブの活動状況の理解を促しています。 年1回、地域の保育園や小学校、幼稚園など関係機関を招いて、地域連絡会を行っています。児童館や学童クラブの活動内容を報告するとともに、企画などに対する協力体制を構築しています。</p>